

サハリン樺太史研究会  
2008年度活動報告書

2012年1月31日  
サハリン樺太史研究会

# —2008 年度活動報告書—

## 目次

活動概要

例会・関連シンポジウム等

共同調査

研究成果刊行物

研究プロジェクト

## 報告書刊行について

本会は 2008 年 7 月に発足した。その後、例会開催、共同調査実施を重ね、さらに 2010 年には研究会誌を刊行、2011 年より公式 HP を開設し、研究会内外への発信にも力を入れるようになった。そこで、毎年の活動を報告書にまとめ記録として残すこととした。本会のあゆみも早 3 年半にいたっており、その間、報告書を作成しておらず、まずは 2008 年度分から順に報告書を作成刊行することとなった。なお、報告書中本文の「本年」などは、報告書年度を指している。

2012 年 1 月 31 日

中山大将

(サハリン樺太史研究会公式HP運営担当者)

## —活動概要—

### 会の結成

2008 年 5 月にサハリン国立総合大学で行われた日口国際シンポジウムは本会結成にとって重要な契機となった。日中のシンポジウムを終えてゲストハウスへ戻った三木理史、竹野学、井澗裕、天野尚樹ら日本側参加者は、連夜今後のサハリン樺太史研究の方向性について意見を交わした。そこでの意見が日本へ持ち帰られ、前記シンポジウムに参加しなかったものの、それまで日口のサハリン樺太史研究の交流に尽力してきた原暉之との相談の末、サハリン樺太史研究会が結成されるにいたった。

### 資料調査情報の交換の場

第 3 回例会では、原、白木沢旭児が北樺太保障占領期に関する資料状況について報告し、第 4 回例会では、井澗がサハリンで行われた樺太期建築に関するシンポジウムの速報を報告したほか、田村将人がその夏に行ったウラジオストクでの、中山大將が冬に行ったサハリンでの文書館調査で得られた最新情報を報告する等、資料調査情報を交換し合う場としても機能し始めた。

### 『日本植民地研究の現状と課題』

竹野が日本植民地史研究会編の『日本植民地研究の現状と課題』に樺太担当として執筆した。これにより日本植民地史研究の中でも等閑視されてきた樺太史研究の新しいスタートラインが示された。

### 『近代東北アジアの誕生』・『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』

天野、原、麓慎一らロシア史、日口関係史からサハリン史にアプローチしていた研究者らの論文が、スラブ・ユーラシア叢書第 4 巻として北海道大学出版会から刊行された『近代東北アジアの誕生』に掲載された。これは東北アジア研究の中にサハリン史研究が位置づけを得たことの表れともいえる。

また、竹野、田村、三木ら日本史から樺太史にアプローチしていた研究者らの論文が中国残留日本人研究のパイオニアである蘭信三が編集した『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』に掲載された。日本帝国研究の中にも樺太史研究が正式に地位を占め始めたことを示す出来事であった。また、それまで樺太史研究は植民地期のことばかり対象にしていたのであるが、田村は「引揚」を対象化することで、樺太史研究の新しい領域を拓いた。

### 共同研究に向けた科研の申請

サハリン樺太史研究者の共同研究の機運は高まり、竹野を中心とした中堅メンバーの発案により、今後の共同研究を推進するべく、数人の代表者を立てて科研の申請を試みた。

## —例会・関連シンポジウム等—

### ■ 第 1 回例会

日時:2008 年 7 月 19 日

場所:北海道大学

会の運営等についての協議

### ■ 第 2 回例会

日時:2008 年 8 月 19 日

場所:北海道大学

ロシア史における「植民」概念……………ミハイル・ヴィソコフ(サハリン国立大学)  
大戦間期の樺太森林資源開発をめぐる半プロレタリア世帯の活動……………中山大将(京都大学)  
1880 年代初頭のサハリン:I. ポリャコフ、A. ニコリスキーの地理調査を手がかりに ……天野尚樹(北海道大学)

### ■ 第 3 回例会

日時:2008 年 11 月 1 日

場所:北海道大学

北樺太保障占領(1920 - 1925)の関連資料について……………原暉之(北海道情報大学)  
北樺太保障占領関連アジア歴史資料センター資料について……………白木沢旭児(北海道大学)

### ■ 第 4 回例会

日時:2008 年 12 月 27 日

場所:北海道大学

サハリンでの樺太期建築に関するシンポジウムについて井濶裕……………(北海道大学)  
ウラジオストクでの文書館調査について……………田村将人(北海道開拓記念館)  
サハリンでの文書館調査について……………中山大将(北海道大学)

### ■ 第 5 回例会

日時:2009 年 3 月 7 日

場所:北海道大学

豊原旧市街の白系ロシア人について……………尾形芳秀(樺太豊原会)

## —共同調査—

### ■ サハリン調査

期間: 2008 年 5 月 2 日～9 日

調査地: ロシア連邦サハリン州

調査先: サハリン州国立公文書館

用務先: サハリン国立総合大学

(6・7 日: 日ロ国際シンポジウム「サハリン: 植民地化の歴史的な経験」)

参加者: 天野尚樹(北海道大学)、井潤裕(北海道大学)、今西一(小樽商科大学)、塩出浩之(琉球大学)、白木沢  
旭児(北海道大学)、竹野学(札幌医科大学)、中山大将(京都大学)、三木理史(奈良大学)、宮本正明  
(世界人権問題研究センター)、森永貴子(北海道大学) \* 五十音順

## —研究成果刊行物—

(五十音順)

■天野尚樹 ..... ロシア極東近現代史・北東アジア国際関係史

### 【論文集】

天野尚樹「サハリン石炭と東北アジア海域史」左近幸村編著『近代東北アジアの誕生：跨境史への試み』北海道大学出版会、2008 年 12 月。

■池田裕子 ..... 教育史

### 【定期刊行物】

池田裕子「樺太における高等女学校の修学旅行--樺太庁豊原高等女学校を中心に」『稚内北星学園大学紀要』8 号、2008 年 3 月。

■井竿富雄 ..... 国際政治史

### 【定期刊行物】

井竿富雄「シベリア出兵九〇年：今日に何を伝えるか」『科学的社会主義』120 号、2008 年 4 月。

井竿富雄「日露開戦に伴う引揚者に対する「救恤」、一九〇九年」『IPSHU 研究報告シリーズ』42 号、2009 年 3 月。

■今西一 日本近代史

【著書】

今西一編『世界システムと東アジア：小経営・国内植民地・「植民地近代」』日本経済評論社、2008年5月。

【論文集】

今西一「帝国日本と国内植民地・北海道」今西一編『世界システムと東アジア：小経営・国内植民地・「植民地近代」』日本経済評論社、2008年5月。

今西一「国内植民地論に関する覚え書」西川長夫、高橋秀寿編『グローバリゼーションと植民地主義』人文書院、2009年3月。

【定期刊行物】

今西一「国内植民地の「遺産」：サハリン・シンポジウムで考えたこと」『女性史研究ほっかいどう』3号、2008年10月4日。

今西一「植民地としてのサハリン」『評論』170号、2008年12月1日。

■尾形芳秀……………豊原郷土史、サハリン・ポーランド人研究

【定期刊行物】

尾形芳秀「ユジノ・サハリンスクに見る豊原」『鈴谷』24号、2008年7月。

尾形芳秀「旧市街の先住者「白系ロシア人」達の長い旅路：オーシップ家をめぐるポーランド人たちの物語」『鈴谷』24号、2008年7月。

■竹野学……………日本植民地経済史

【論文集】

竹野学「樺太」日本植民地研究会編『日本植民地研究の現状と課題』アテネ社、2008年6月。

竹野学「戦前期樺太における商工業者の実像」蘭信三編『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』不二出版、2008年6月。

【定期刊行物】

竹野学「1940年代における樺太農業移民政策の転換：樺太からみる近代日本の植民地農業移民」『農業史研究』43号、2009年3月。

松本武祝、北村 暁夫、竹野学ほか「討論（[日本農業史学会]2008年度シンポジウム 20世紀世界の農業と移動：移民・入植・難民）」『農業史研究』43号、2009年3月。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■田村将人 ..... アイヌ史

【論文集】

田村将人「樺太アイヌの<引揚げ>」蘭信三編『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』不二出版、2008年6月。

田村将人「山本多助氏のノートに含まれるアイヌ語樺太方言語彙」津曲敏郎編『サハリンの言語世界：北大文学研究科公開シンポジウム報告書』北海道大学大学院文学研究科、2009年3月。

■中山大将 ..... 農林業史・歴史社会学

【定期刊行物】

中山大将「周縁におけるナショナル・アイデンティティの再生産と自然環境的差異：樺太米食撤廃論の展開と政治・文化エリート」『ソシオロジ』第53巻2号、2008年10月。

■原暉之 ..... ロシア極東近現代史

【論文集】

原暉之「近代東北アジア交易ネットワークの成立」左近幸村編著『近代東北アジアの誕生：跨境史への試み』北海道大学出版会、2008年12月。

■麓慎一 ..... 日露関係史

【論文集】

麓慎一「国際的環境から見た日露間の航路形成」左近幸村編著『近代東北アジアの誕生：跨境史への試み』北海道大学出版会、2008年12月。

麓慎一「千島列島の内国化と国際的環境」西川長夫、高橋秀寿編『グローバリゼーションと植民地主義』人文書院、2009年3月。

【定期刊行物】

麓慎一「明治中期の千島開発について：海軍大尉郡司成忠のシムシュ島移住を中心に」『新潟大学教育人間科学部紀要 人文・社会科学編』第10巻2号、2008年。

麓慎一「日本開国期における帝政ロシアのサハリン島政策（研究集会報告 日露関係史料をめぐる国際研究集会報告）」『東京大学史料編纂所研究紀要』19号、2009年3月。

\*【著書】…著書、編書、翻訳書など。【論文集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【定期刊行物】…学術誌、紀要、会誌などに掲載された論文など。

■松井憲明 ..... ロシア社会経済史

【定期刊行物】

Vysokov Mikhail (松井憲明 訳)「翻訳 サハリンと千島列島:編年史、1926-30 年」『釧路公立大学  
地域研究』17号、2008年12月。

Vysokov Mikhail (松井憲明 訳)「〈翻訳〉サハリンと千島列島:編年史、1981-85 年」『人文・自然  
科学研究』21号、2009年3月19日。

■三木理史 ..... 歴史地理学

【定期刊行物】

三木理史「20世紀日本における樺太論の展開」『地理学評論』第81巻4号、2008年5月1日。

【論文集】

三木理史「明治末期岩手県からの樺太出稼」蘭信三編『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』不  
二出版、2008年6月。

## 一研究プロジェクト一

(代表者五十音順)

■井澗裕 ..... 建築史

[最終]井澗裕「近代サハリンにおける社会変動と市街地変容(ユジノ・サハリンスクを中心に)」科学研究費補助金・若手研究(B)、2007-2008 年。

■塩出浩之 ..... 日本政治史

[継続]塩出浩之「明治初期の新聞による公論形成と東アジア国際秩序」科学研究費補助金・若手研究(B)、2007-2009 年。

■田村将人 ..... アイヌ史

[最終]田村将人「日本統治期サハリンにおける樺太アイヌのエスノヒストリーの構築」科学研究費補助金・若手研究(B)、2006-2008 年。

■麓慎一 ..... 日露関係史

[継続]麓慎一「露米会社の極東経営と北方世界」科学研究費補助金・萌芽研究→挑戦的萌芽研究、2007-2009 年。

[継続]麓慎一「19 世紀後半における露清関係の変容と日本の北東アジア政策」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2007-2010 年。

\* 掲載している研究プロジェクトは、本会関係者が代表者をつとめるもののうち、サハリン樺太史関連のもののほか、周辺地域・領域をテーマにする物も含んでいる。[新規]…今年度より開始したもの。[継続]…中間年度にあたるもの。[最終]…最終年度にあたるもの。[単年]…今年度開始した単年度のもの。

=====

## サハリン樺太史研究会 2008 年度活動報告書

発行日：2012 年 1 月 31 日

編集者：中山大將

発行者：サハリン樺太史研究会

[公式 HP] <http://sakhlinkarafutohistory.com/home.html>

お問い合わせは、上記 HP の問い合わせフォームよりお願いいたします。

=====